

環境経済委員会資料

三河港港湾計画改訂に向けた取り組みについて

1. 検討体制及び取組スケジュール 資料1

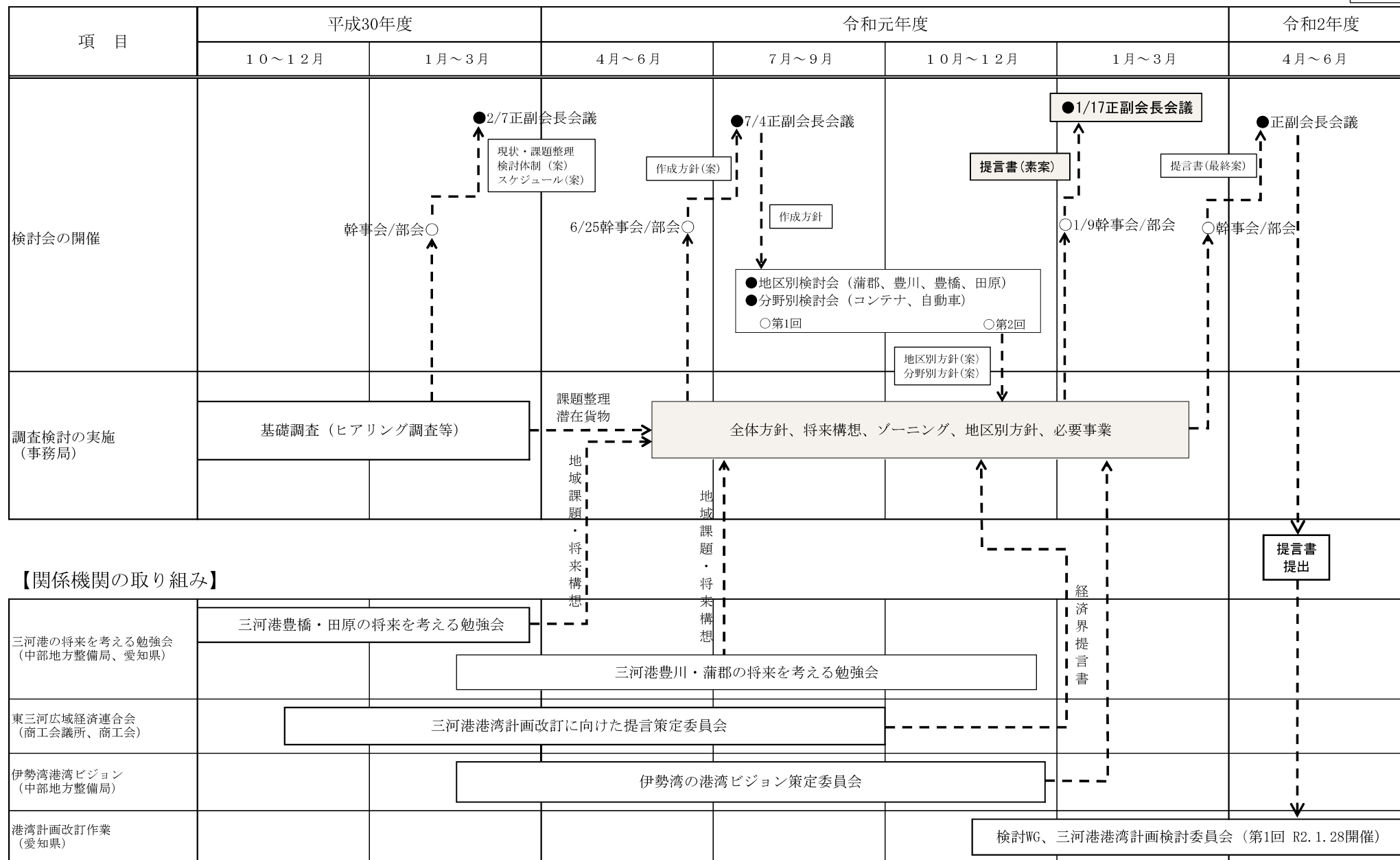
2. 三河港の目指すべき将来像に関する提言書(素案) 資料2

令和2年2月17日
産業部みなと振興課

【三河港振興会の取り組み】

検討体制及び取組スケジュール

資料1



三河港の目指すべき 将来像に関する提言書 (素案)

＝次期港湾計画改訂に向けて＝



三河港振興会

三河港港湾管理者 愛知県知事 大村秀章 様

(前文)

本提言書は、私どもの総意でありますので、次期港湾計画改訂にあたり、ぜひご反映いただき、三河港のより一層の振興発展にご理解とご支援をいただきたく存じます。

三河港振興会

会 長	豊橋市長	佐原光一
副会長	豊川市長	竹本幸夫
	蒲郡市長	鈴木寿明
	田原市長	山下政良
	豊橋商工会議所会頭	神野吾郎
	豊川商工会議所会頭	小野喜明
	蒲郡商工会議所会頭	小池高弘
	田原市商工会会長	河合利則

目次

1章	はじめに	
1. 1	提言書策定における背景と目的	4
2章	三河港の現状と課題	
2. 1	三河港の現状	4
2. 2	三河港を取り巻く社会経済情勢と課題	8
3章	三河港の目指す方向性と姿	
3. 1	三河港の目指す方向性とゾーニング	10
3. 2	三河港の目指す姿と求められる機能	12

1章 はじめに

1. 1 提言書策定における背景と目的

- ・三河港の港湾計画は平成 23 年（2011 年）に第 6 次計画を策定し平成 30 年代前半を目
標年次として取り組んできた。計画改訂から約 10 年が経過しようとしており、計画の
前提となる社会経済情勢、港湾物流の動向等が大きく変化している。
- ・長期的視点にも立った総合的な見地から三河港の将来のあり方について、目指すべき将
来像やその実現に向けた各地区の要望などを取りまとめ、港湾管理者へ提言する。

2章 三河港の現状と課題

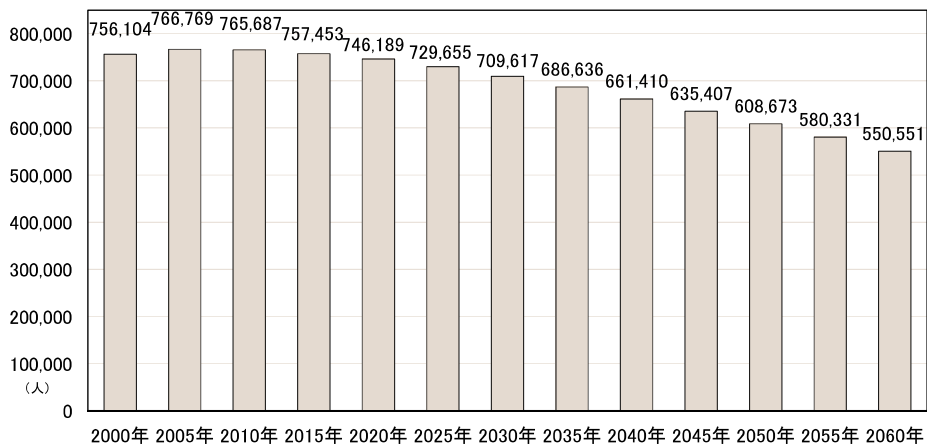
2. 1 三河港の現状

(1)三河港背後地のポテンシャル

【以下、三河港背後地の産業経済等に関する記載項目】

①人口動向

三河港の背後圏の東三河地域の人口は、2015 年では約 75 万人であるが、将来推計人口
は 2050 年で 60 万人程度まで減少する。

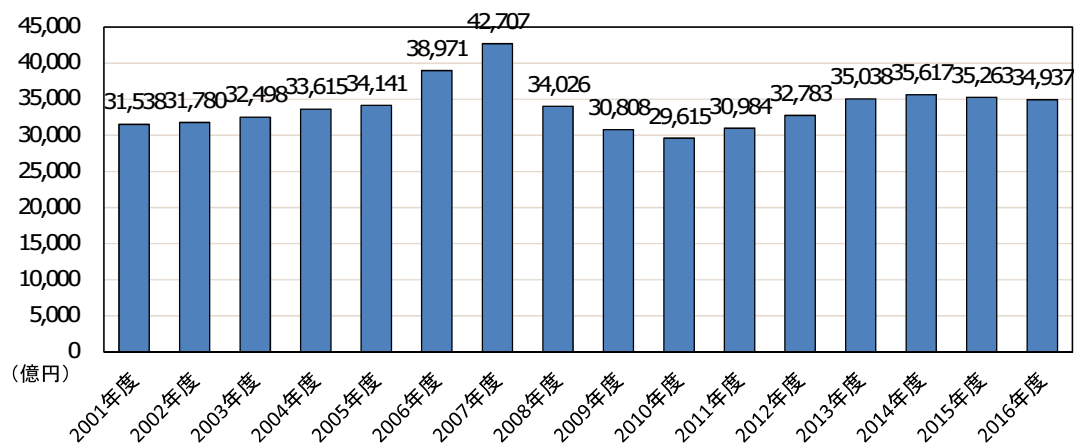


■東三河地域の総人口の推移と将来推計

2000 年～2015 年：総務省「国勢調査」、2020 年以降：社人研「日本の地域別将来推計人口」より作成

②GDP 等の地域経済動向

東三河地域の市町村内総生産は、2013 年度以降は 3 兆 5000 億円程度でほぼ横ばいで推移している。



■東三河地域の市町村内総生産の推移
愛知県の市町村民所得より作成

③産業構造（農業、製造業、観光業等）

東三河地域の製造品出荷額等の金額は 4 兆 7000 億円で市町村順位では全国 2 位を上回るものづくりの集積を有する。また、農業産出額は 1630 億円で全国市町村トップ 10 に 2 市がランクインしている。

製造品出荷額等

1位	豊田市	14兆1,666億円
	東三河	4兆7,036億円
2位	川崎市	4兆2,884億円
3位	市原市	4兆2,145億円
4位	横浜市	4兆1,394億円
5位	倉敷市	4兆0,186億円

農業産出額

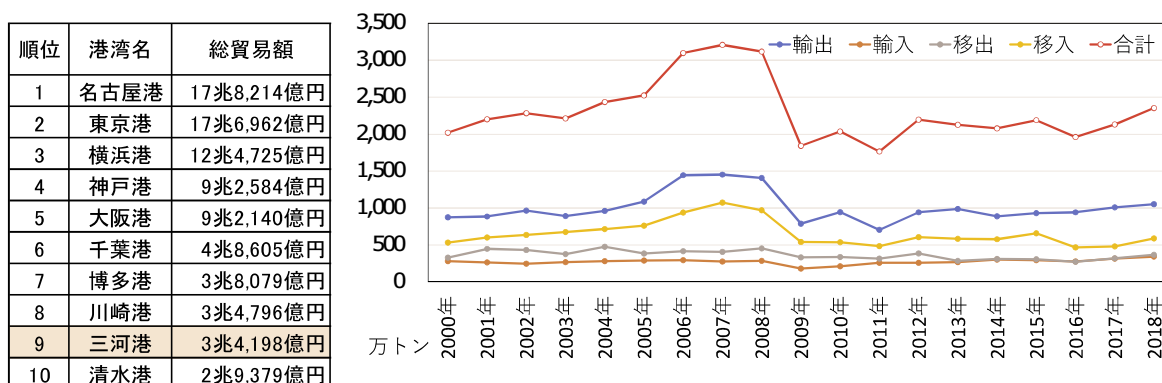
1位	田原市	853億円
2位	鉾田市	780億円
3位	都城市	754億円
4位	新潟市	623億円
5位	別海町	621億円
6位	旭市	567億円
7位	浜松市	533億円
8位	熊本市	484億円
9位	豊橋市	439億円
10位	弘前市	435億円
	東三河	1,630億円

■東三河地域の製造品出荷額等と農業産出額の全国比較
製造品出荷額等は 2016 年経済センサスより、農業産出額は 2016 年市町村別農業産出額より作成

(2)港湾利用の状況

①三河港の貿易額と取扱貨物量の推移

三河港の貿易額は3.4兆円で全国の重要港湾以上120港の中では第9位である。取扱貨物量は、2008年に3,200万トンまで増加し、2018年は約2,300万トンの取扱があった。



■三河港の貿易額順位と取扱貨物量の推移

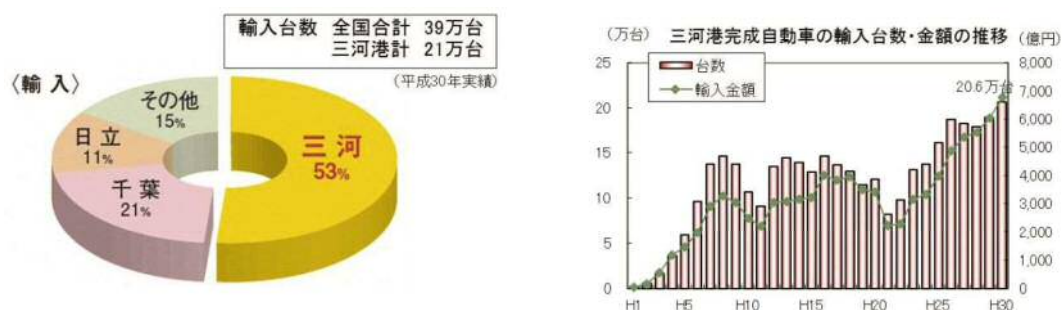
貿易額は2018年貿易統計より、取扱貨物量は三河港統計年報の各年より作成

②完成自動車の取扱貨物量の推移と現況

三河港の取扱貨物の大半は完成自動車で、貿易量は日本トップクラスである。2018年の完成自動車輸出は金額・台数ともに全国第2位、完成自動車輸入は金額・台数ともに26年連続全国1位である。

輸入

三河港の完成自動車輸入は、金額・台数ともに26年連続全国1位。平成30年は、台数20.6万台（前年比108.5%）、金額6,771億円（前年比111.9%）であった。

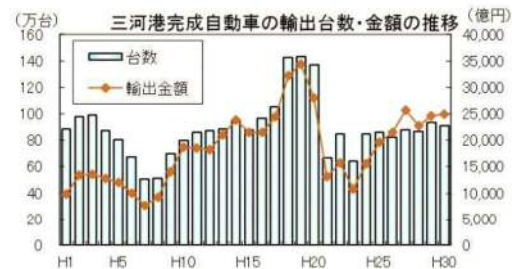
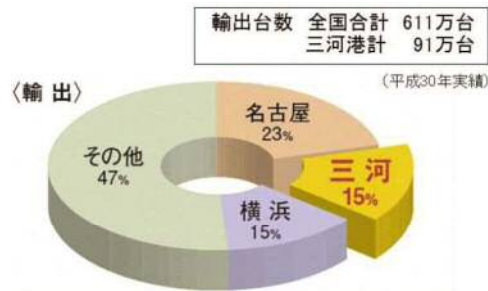


■三河港の輸入完成自動車の取扱状況

財務省貿易統計等より作成

輸出

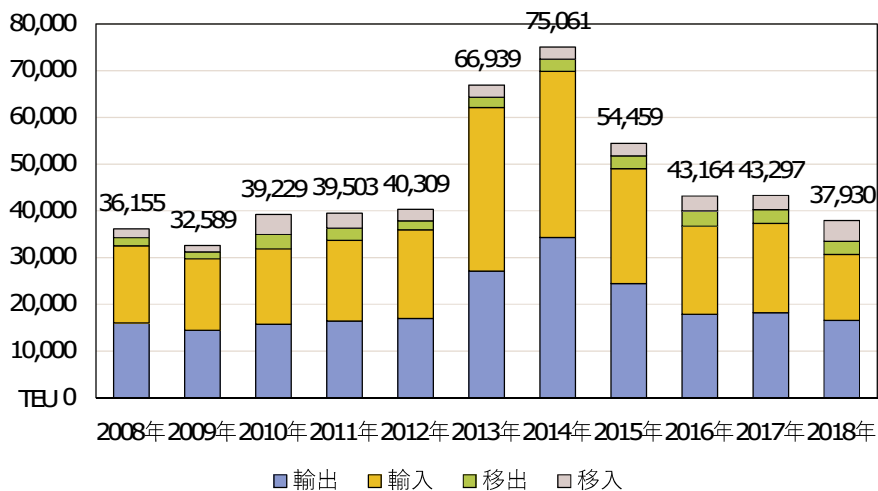
三河港の完成自動車輸出は、金額・台数ともに名古屋港に次いで全国第2位。平成30年は、台数91.0万台（前年比97.4%）、金額2兆4,987億円（前年比101.5%）であった。



■三河港の輸出完成自動車の取扱状況
財務省貿易統計等より作成

③コンテナの取扱貨物量の推移と現況

三河港のコンテナ貨物量は2014年まで増加し、ロシア航路が休止された後、2016年は43,000TEUに減少し、その後横ばいで推移し、2018年は37,930TEUとなった。



■三河港のコンテナ貨物の取扱状況
三河港統計年報各年より作成

【以下、三河港の港勢等に関する記載項目】

④その他貨物の取扱量（スクラップ等）の推移と現況

⑤クルーズ船の寄港状況

2. 2 三河港を取り巻く社会経済情勢と課題 【以下、主な記載項目】

○日本の人口減少と労働力不足

長期的な労働者不足が続くことから、港湾の働き手やドライバー不足への対応が必要。

○アジア圏等の新興国の経済成長と生産・物流ネットワークの進展

アジア圏の経済成長を取り込むため、アジア圏とのサプライチェーン構築が必要。

○中部圏の産業経済の構造変化への対応

自動車産業は 100 年に一度の大変化の時にある。三河港は CASE に代表される自動車の構造変革への対応が求められる。

○環境規制強化の進展

低炭素社会実現に向け新しいエネルギーの戦略的な取り組みが必要。LNG や水素等の新エネルギーの利用拡大が期待される。

○AI、ICT など情報通信技術の進展

次世代技術を港湾に取り入れることで、港湾の生産性向上、物流の効率化、サプライチェーンの高度化に資する取り組みが期待される。

○大規模災害、防災対策

巨大地震や自然災害のリスクの高まり、大規模災害への備えが必要。

○訪日外国人観光客の増加とクルーズ市場の拡大

インバウンド市場やクルーズ市場などの国際需要の取り込みによる地域活性化が期待される。

上記情勢を踏まえた三河港の課題については以下のとおり 【以下、主な記載項目】

(1)完成自動車の取扱機能の強化

- ・船舶の大型化に対応できる港湾施設の機能強化
- ・季節的な輸出入需要の変動に対応できる荷捌き地の確保
- ・情報通信技術を活用したスマートターミナルによる完成自動車荷役の効率化、高度化

(2)コンテナ物流機能の強化

- ・高速道路や高規格道路等の整備による集荷圏域の拡大に伴うポートセールスの強化
- ・アジア圏のダイレクト航路拡充要請への対応
- ・コンテナターミナル機能の自動化などの高度化とコンテナターミナル用地の最適な利用

(3)スクラップなどの一般貨物の取扱機能強化

- ・スクラップ貨物の取扱機能強化
- ・一般貨物の荷捌き地等の効率的な土地利用の検討
- ・木材取扱拠点の利用転換や再編策の検討

(4)東三河の経済を牽引する産業集積拠点の形成

- ・東三河への企業立地を促進する用地整備
- ・新産業創出と付加価値を創造する産業拠点形成

(5)自然エネルギー、バイオマス発電関連の貨物取扱への対応

- ・バイオマス発電施設の集積とそれに伴う輸入原料の受入拠点の整備
- ・風力発電、太陽光発電等の自然再生エネルギー施設の立地促進
- ・LNG、水素燃料など次世代の新エネルギー産業の誘致と取扱機能の整備

(6)内航船を活用した国内物流体系の構築によるグリーンポート化

- ・ドライバー不足に対応する内航船・RORO 船のネットワーク充実
- ・低炭素社会への移行やトラックドライバー不足解決のためのモーダルシフトへの対応

(7)クルーズ船の寄港を活用した東三河地域の観光振興

- ・蒲郡地区へのクルーズ船寄港拠点の整備
- ・三河港背後地との連携による訪日外国人観光客等を対象とした観光ビジネスの創出
- ・市民等が気軽にウォータースフロントのレジャー等を楽しめるみなとまちづくりによる親しみやすく魅力的な港湾空間の形成

(8) 大規模災害や自然災害時における迅速な復旧・復興を可能とする防災対策

- ・国、港湾管理者、地元自治体、民間事業者の連携による港湾 BCP の推進
- ・港湾労働者等の安全・安心を確保するための防災対策や防災拠点の整備

(9)港湾と背後地を結ぶ道路ネットワークの整備

- ・臨港道路東三河臨海線の整備による埠頭間のボトルネックの解消と貨物流動促進
- ・三河港と背後地を結ぶ高速道路ネットワークの整備による集荷圏域の拡大

(10)官民の連携・運営による戦略的な港湾経営

- ・港湾施設の管理運営や完成自動車等の貨物を総合的に扱う運営組織の設立など、管理体制が効率化・高度化され、世界から選ばれる港湾運営の検討

3章 三河港の目指す方向性と姿

3.1 三河港の目指す方向性とゾーニング

これまで本会が検討を重ねてきた結果を踏まえ、三河港を取り巻く社会経済情勢を勘案するとともに、国の PORT2030 や伊勢湾の港湾ビジョンなどを参考に、三河港の目指す方向性については以下とおり 5 つの柱を提示する。

三河港の目指す方向性

第 4 次産業革命や労働者不足、脱炭素社会の到来など社会情勢の変化に対応し、これまでの自動車産業や観光産業などの強みをさらに伸ばし、新エネルギーや農林産業など新産業の振興にも貢献する、東三河地域の持続可能な発展を支える港湾

1. グローバルバリューチェーンを支える国際物流港湾

- ・三河港の太宗貨物である完成自動車の取扱機能の高度化、機能強化を進め、国際自動車港湾としての地位を確立する。
- ・物流の安定化、効率化、コスト低減化の実現を通じて背後地企業の国際競争力を確保し、さらなる交易拡大を支援する国際物流拠点を形成する。

2. ものづくりの集積地である地域経済・産業の発展に貢献する産業港湾

- ・背後地企業の生産性の向上や付加価値化を促進し、地域産業の持続的発展を支える産業基盤を提供する。
- ・国際競争力のあるものづくり産業等のポテンシャルを最大限に引き出し、生産性の向上を図るため、ふ頭間および臨海部と背後の幹線道路とのネットワークを形成する。

3. 多くの人々が交流し三河湾の豊かさを享受できる魅力的な観光交流港湾

- ・臨海部を含め東三河地域の自然、歴史、文化など多様な観光資源を活かしてまちづくりと一体となった魅力的な港湾空間を形成し、世界に開かれた観光交流拠点を目指す。

4. 自然災害に強く環境と調和する防災・環境港湾

- ・ 企業や市民の生命や財産を守り、安心な暮らしを約束するため、大規模災害等に備えた港湾の強靱化を進める。
- ・ 地球環境問題やエネルギー利用に対する世界的な意識の高まりを受け、脱炭素・循環型社会の構築に積極的に貢献する。

5. 自らサプライチェーンを開発するソリューション提供港湾

- ・ 国の港湾制度や海外諸港の動向を踏まえ、官・民が連携し、賢く、進化する三河港の確立に向けて、「施設管理」から「ソリューション提供・価値創造型」の港湾へ、次の時代に相応しい港湾運営を目指す。



3. 2 三河港の目指す姿と求められる機能

5つの目指す方向性をもとに、三河港の目指す姿を提示し、それを実現するために求められる機能の事業例を提示する。

1. グローバルバリューチェーンを支える国際物流港湾

① 最先端の完成自動車ターミナルを備え、世界の自動車が集積する日本一の自動車ターミナル	
求められる機能	■取り扱い増加に対応し効率的な完成自動車輸送を実現するための十分な広さのモータープール (事業例) ふ頭再編の推進、ふ頭用地の埋立・沖合への拡大 など ■自動運転及び自動荷役に対応したスマートターミナル (事業例) 完成自動車の自動運転・自動荷役に対応した施設整備 など ■完成自動車、一般貨物との完全分離による効率的な物流空間 (事業例) ふ頭再編の推進、ふ頭用地の埋立・沖合への拡大 など
② 背後圏の企業活動の持続的発展を支える次世代物流拠点	
求められる機能	■静穏度が確保された安全なコンテナ荷役環境 (事業例) 防波堤の整備促進、ふ頭用地の沖合への拡大 など ■CFSの整備やコンテナラウンドユース等による効率的なコンテナ物流 (事業例) 公共CFSの整備、サードパーティーロジスティクス倉庫の誘致 など ■農林産品の取り扱いが可能な保管施設等を備えた物流拠点機能 (事業例) 冷蔵冷凍倉庫の整備、IoTを活用した品質管理の実現 など ■新たな種類の貨物を取り扱うことが可能な十分な広さのふ頭用地 (事業例) ふ頭再編の推進、ふ頭用地の埋立・沖合への拡大 など ■自動荷役に対応したスマートターミナル (事業例) 自動荷役に対応した施設整備、ヤード内自動運転専用レーン整備 など ■臨海部および背後地企業のサプライチェーンを支える港湾機能 (事業例) モーダルシフト促進、物流企業等の誘致による創荷 など

2. ものづくりの集積地である地域経済・産業の発展に貢献する産業港湾

③ 新たな付加価値を創出し地域経済を発展させる産業集積拠点	
求められる機能】	■新たな産業の立地・集積が可能な次世代産業拠点 (事業例) ふ頭再編、貯木場の埋立 など ■製造業の集積を生かした新たな付加価値の創出 (事業例) 共同輸送によるサプライチェーンの効率化、AI・IoT を活用した生産性の向上 など

④ 三河港臨海部および背後地とをつなぐ道路ネットワーク	
求められる機能】	■ふ頭間道路の整備による渋滞緩和、貨物輸送の円滑化、企業の生産性を高める物流ネットワーク (事業例) 東三河臨海線の整備、臨港道路(蒲郡～大塚～御津)の整備 など ■広域幹線道路ネットワークの形成による集荷圏域の拡大 (事業例) 国道 23 号バイパス早期開通・4 車線化とアクセス道整備、国道 151 バイパスの高速 IC までの高架化 など

3. 多くの人々が交流し三河湾の豊かさを享受できる魅力的な観光交流港湾

⑤ 国内外の観光需要を地域の経済成長に繋げる観光拠点	
求められる機能】	■東三河の観光資源と連携した三河湾の国際クルーズ拠点 (事業例) 伊勢湾や東三河一体となったポートセールス、蒲郡発着ツアーの開発など ■貨客が分離された安全で景観に優れた港湾空間 (事業例) 岸壁の整備促進、航路拡幅 など

⑥ 自然、歴史、文化、産業など多様な地域資源を活かしてまちづくりと一体となった魅力的な港湾空間	
求められる機能】	■自然やレクリエーションを活用した賑わい、交流の創出 (事業例) 蒲郡駅から竹島までの整備、竹島周辺の再開発 など ■自動車を観光資源とした自動車のまち (事業例) 訪問型納車式の拡大、輸入完成自動車の観光産業化 など ■水辺にふれあい、海の豊かさが享受できる親水交流空間 (事業例) 人工海浜等水辺を楽しめる空間づくり など

4. 自然災害に強く環境と調和する防災・環境港湾

⑦ 港湾施設の強靱化により安心安全が確保されたみなど	
求められる機能】	■災害時においてサプライチェーンの寸断を防ぐ強靱な港湾機能 （事業例）港湾 BCP の強化、他港と連携した災害対応体制構築 など ■自衛隊等が活動展開できる地域防災拠点 （事業例）耐震岸壁の整備、臨海防災拠点の整備 など

⑧ 脱炭素社会の実現に貢献するグリーンポート	
求められる機能】	■次世代エネルギー産業の集積によるエネルギー供給拠点 （事業例）LNG バンカリング拠点施設の整備、LNG 船入港インセンティブ など ■脱炭素社会の実現に貢献するエコポート （事業例）船舶・完成自動車への給電設備の整備、荷役機械の電動化 など ■リサイクル産業の集積、鉄スクラップ輸送船の大型化に対応した効率的な静脈物流拠点 （事業例）ふ頭用地、ヤードの埋立整備 など

5. 自らサプライチェーンを開発するソリューション提供港湾

⑨ 管理体制が効率化・高度化された世界から選ばれるみなど	
求められる機能】	■経営的な視点を取り入れた新たな港湾経営体制 （事業例）新たな港湾運営のあり方を検討する体制の構築、官民連携した戦略的な創荷・集荷 など

⑩ 最先端の情報通信技術を活用したスマートポート	
求められる機能】	■IoT や ICT 等を活用した港湾の情報化、サプライチェーンマネジメントの高度化 （事業例）自動出入庫システム及び施設整備、貨物輸出入・港湾関連手続きの電子化 など